

# 特集 辞書・事典・図鑑

1~5面

## 出版社と著者のエッセイで紹介 お薦めのこの〈一冊〉

3・4面

### 広くアナキズムを包摂する 多彩な幅をもった事典

十五年の時間を経て、いま増補改訂版が刊行される

久保隆

▼日本アナキズム運動人名事典編集委員会編『増補改訂日本アナキズム運動人名事典』4・20頁・本体三二〇〇〇円・ばる出版



# 社会思想史の 多様性を一冊に

## 社会思想史とは何か、さまざまな思考を誘う「読む事典」

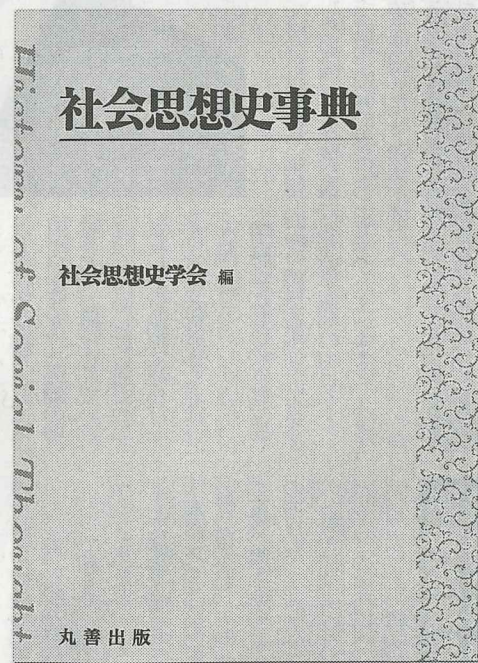
鼎談

### 三島憲一 上野成利 宇野重規

MISHIMA Kenichi 大阪大学名誉教授

UENO Naritoshi 神戸大学教授

UNO Shigeki 東京大学教授



▼社会思想史学会編『社会思想史事典』1月刊、A5判八八四頁・本体二〇〇〇〇円・丸善出版

書評でつながる  
読書コミュニティ  
あなたの書評、お待ちしております。  
本が好き!  
HONGASUKI  
www.honzuki.jp

社会思想史学会編『社会思想史事典』が丸善出版から刊行された。社会思想史学会創立四〇周年、丸善創業一五〇周年を記念する出版である。「近代」を軸に構成されてきた社会思想史研究の最新成果を取り入れた、五部構成からなる壮大な「読む事典」が、ここに誕生した。ルネサンス期から二一世紀の現在にいたる社会思想史の学知が、この一冊には凝縮されている。

「社会思想史への誘い」に表れる特徴

上野 『社会思想史事典』は、社会思想史学会創立四〇

十五年前に『日本アナキズム運動人名事典』が刊行された時、わたしには不思議な感慨を抑えることができなかった。それは、なぜこの時点で人名事典なのかというところが、なかなかリアルなこととして理解できなかった。ところが、若し世代とのあたたかな連携がなされたことに大きな刺激を受けたことを忘れてはいけない。これは、

伊藤野枝虚殺から八十年が経過したことへのイベント企画として『S16-Reclaim the Life (人生の奪還)』——1993年大杉栄ら虚殺と今をめぐって——が行われた。わたしは、わずかに関係があったが、若し世代とのあたたかな連携がなされたことに大きな刺激を受けたことを忘れてはいけない。これは、

「S16」に参集したメンバーと旧版『人名事典』の編集委員、執筆者が重なっていたのは、いつまでもないが、日本アナキズム運動、というカテゴリーに、いかなれば横が撃ち込まれたことが大きな意味を持つていたというべきかもしれない。つまり、反体制といった曖昧な前提の揺らぎに対して、明確な立ち位置と意思表示をもって、対抗・抵抗の視線を射し入れていくというものであったということになる。

「S16」に参集したメンバーと旧版『人名事典』の編集委員、執筆者が重なっていたのは、いつまでもないが、日本アナキズム運動、というカテゴリーに、いかなれば横が撃ち込まれたことが大きな意味を持つていたというべきかもしれない。つまり、反体制といった曖昧な前提の揺らぎに対して、明確な立ち位置と意思表示をもって、対抗・抵抗の視線を射し入れていくというものであったということになる。

「S16」に参集したメンバーと旧版『人名事典』の編集委員、執筆者が重なっていたのは、いつまでもないが、日本アナキズム運動、というカテゴリーに、いかなれば横が撃ち込まれたことが大きな意味を持つていたというべきかもしれない。つまり、反体制といった曖昧な前提の揺らぎに対して、明確な立ち位置と意思表示をもって、対抗・抵抗の視線を射し入れていくというものであったということになる。

「S16」に参集したメンバーと旧版『人名事典』の編集委員、執筆者が重なっていたのは、いつまでもないが、日本アナキズム運動、というカテゴリーに、いかなれば横が撃ち込まれたことが大きな意味を持つていたというべきかもしれない。つまり、反体制といった曖昧な前提の揺らぎに対して、明確な立ち位置と意思表示をもって、対抗・抵抗の視線を射し入れていくというものであったということになる。

「S16」に参集したメンバーと旧版『人名事典』の編集委員、執筆者が重なっていたのは、いつまでもないが、日本アナキズム運動、というカテゴリーに、いかなれば横が撃ち込まれたことが大きな意味を持つていたというべきかもしれない。つまり、反体制といった曖昧な前提の揺らぎに対して、明確な立ち位置と意思表示をもって、対抗・抵抗の視線を射し入れていくというものであったということになる。

「S16」に参集したメンバーと旧版『人名事典』の編集委員、執筆者が重なっていたのは、いつまでもないが、日本アナキズム運動、というカテゴリーに、いかなれば横が撃ち込まれたことが大きな意味を持つていたというべきかもしれない。つまり、反体制といった曖昧な前提の揺らぎに対して、明確な立ち位置と意思表示をもって、対抗・抵抗の視線を射し入れていくというものであったということになる。

THE BOOK REVIEW PRESS  
図書新聞  
3396号  
1-169-0075 東京都新宿区豊田三丁目3-13-1  
電話 03(5937)3918 FAX 03(5937)3919  
購読料(送料別) 1年48回12000円  
半年24回6400円 振替001602-673461  
http://rososhinbun.jp

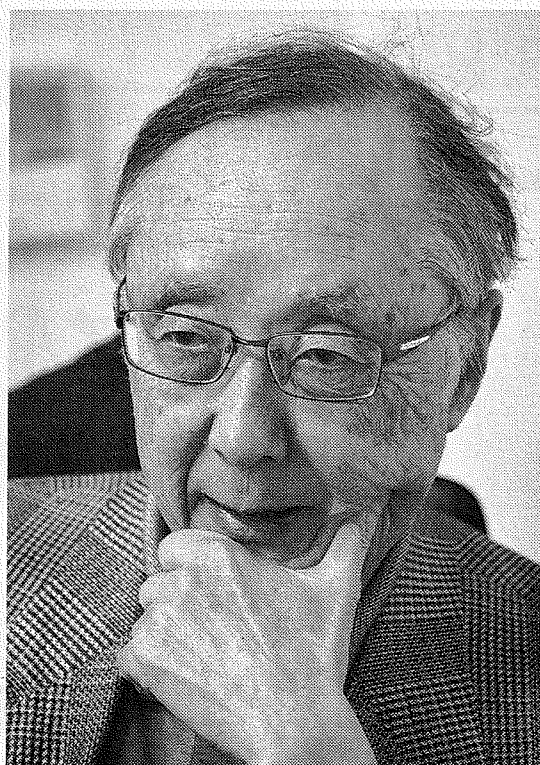
2019-4-20  
書評でつながる  
読書コミュニティ  
あなたの書評、お待ちしております。  
本が好き!  
HONGASUKI  
www.honzuki.jp



### 「二〇四〇年の研究の変化を反映した項目

上野 近代を軸にするという点では、あるいはハーバースマン流の「未完のプロジェクトとしての近代」というコンセプトが見え隠れしている、といわれるかもしれませんが...

宇野 本書は価値的なコメントをマニフェストしている事典だと思います。「近代の相対化」や「近代を乗り越える」という言説が見られるなかで、本書は近代を近代として扱っている。近代は近代から来たもの、交錯し、みずからの矛盾と課題をどう向き合ってきたのか、今日その状況は進行しているか...



▲三島憲一氏

学の生涯などの項目に、古代のストア派や懷疑主義などがいろいろなかたちで結びついていることがよく表れている。

そういう意味では、近代を扱いながら、近代は近代から来たのかという来歴を説明するあたりで、それ以前の時代のことにも触れています。

それから、中国などに関する項目をかなり入れて、西欧中心主義、欧米中心主義という問題に取り組み努力しています。第一部の第一章「ルネサンス」で、儒教について二つの項目を入れています。これは象徴的な例です。一方では東アジア内部での儒教の展開、他方ではイエズス会などを通じてヨーロッパにどのような影響を与えたのかを概説することで、相互のインタラクションを意図的に示しています。

それから、近年の歴史学のグローバル化に対応して、文明と野蛮、啓蒙と野蛮、帝国と植民地といった議論を盛り込むことで、一九世紀以降の帝国主義と植民地主義、総力戦の時代へとつながる展望をえています。

このように、従来のヨーロッパ中心主義を相対化し、外から見る目をなめる、組み込むと述べています。全面的に世界の社会思想史事典にはなっていないかもしれませんが、ヨーロッパ中心主義を相対化しようという意図と狙いははっきりと表れています。

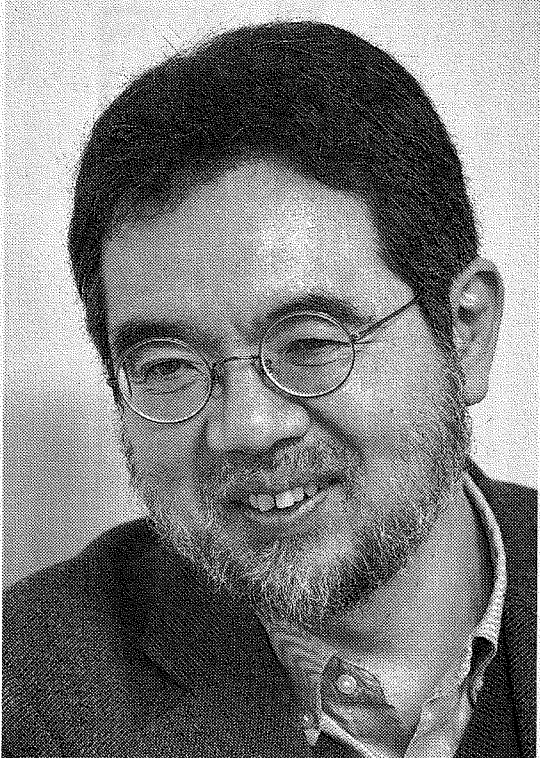
表れています。

三島 たゞしは第七部の第二章「関係／秩序の変容と再編」で、先住諸民族の項目を入れています。このようにインタラクションとして捉えるのは非常に重要です。とはいえ、まだまだイスラム圏については乏しいし、韓国や中国で行われている西洋研究も非常に水準は高いですが、それとのつながりもありません。

もっと改めて事典をつくる際には、中国や韓国の学者にも執筆していただく必要があります。二〇年後には、おそらくそのようにインタラクションが進んでいるでしょう。

宇野 第二部の終わりで、市民的公共圏をハーバースマンの議論を中心に紹介した直後、東アジアの公共圏を並べている。こうして並べてみることで、公共圏という同じ言葉を使っても、ヨーロッパのものと東アジアのものがかいかに違うかということがわかり、いろいろな思考を誘われます。

上野 事典のつくりとして思想家列伝風に仕上がったことも、思想のインタラクションやネットワークの観点を大事にたことに関わっています。本書の全項目のうち人名項目はすべて一割程度に抑え、むしろ概念や思潮に焦点を当てています。概念や思潮といったトピックにそれなり



▲上野成利氏

### 鼎談『社会思想史事典』丸善出版(をめぐって)

### 三島憲一×上野成利×宇野重規

▲宇野重規氏

三島 文字の成立、グーテンベルク革命、インターネットは三大発明ですから

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

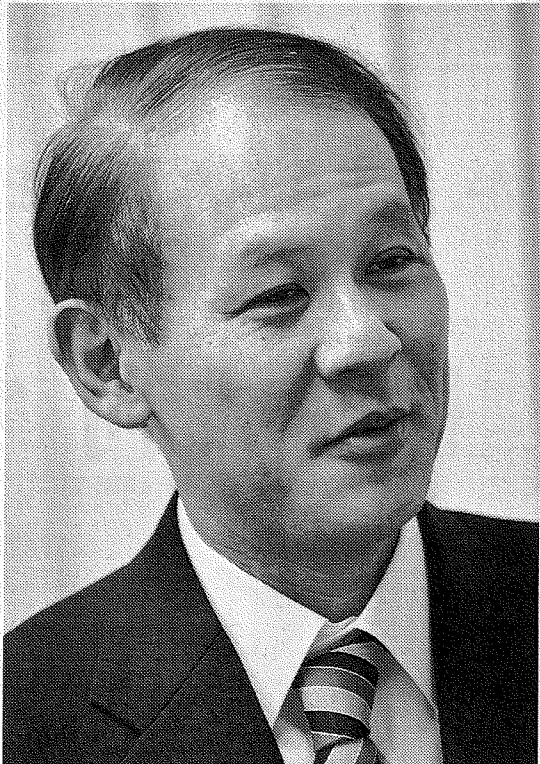
三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

上野 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

三島 政治思想史や経済思想史に比べて難しいのは、社会思想史には科学技術やテクノロジーについての要素もかなり入ってくる

### 通史より事典を読む方がはるかに面白い

上野 もう一つ、社会思想史研究が政治思想史研究や経済思想史研究と異なるのは、国家や市場だけではなく、文化に関わるトピックを多く取り扱っている点です。本書の項目のなかにも、文化が多く含まれています。立項するときに意図的に文化の項目を多く入れたこともあります。もちろん、最新の政治思想史研究や経済思想史研究の成果も反映していますが、文化の占める比重がかなり大きい。それは本書の大きな特徴だと思います。



▲三島憲一氏

上野 この事典の項目は時系列に並んでいますから、一種の通史のように読めません。かといって、通史と比べると全体を強固に縛って編集しているわけでもありません。適度なほらけ方が面白くもあると思います。

宇野 いろいろな執筆者が、同じことを微妙に違うように書いています。

上野 その幅が面白くもなっているのかもしれないですね。逆に、通史を書くための難しさを反映しているのかもわかりませんが。

三島 通史を読むより、この事典を読む方がはるかに面白いですね。そのことには逆で、通史はなぜ遅延か、という問題もあります。

上野 社会思想史は通史を書くのがなかなか難しいですね。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

上野 たゞしはグーテンベルク革命の項目などもあってよかったかもしれません。

三島 本書ではスペース的制約もあり、博物館やコレクション、図書館、コンサートホール、動物園などについては入れることができずして、市民生活についてはきわめて重要な項目です。たとえば動物園や博物館については明らかに考え方が変わってきている。それをも包括するのが社会思想史という学問ですかね。

の紙幅を割くことで、思想史の大きな文脈のなかで個々の思想家について言及している。事典全体として思想のインタラクションやネットワークを浮かび上がらせるような枠組みになっています。

そのうえで宇野さんがいわれたように、ここ数十年の学知のトレンドを踏まえ、歴史学におけるグローバル・ヒストリーや政治思想史における共和主義研究などの成果も積極的に取り入れていきます。ポストコロニアル主義やカルチュラル・スタディーズなども含め、四〇年前にはなかったいろいろなトレンドが、さまざまなかたちで反映されています。

三島 これまではスミスやヘーゲルなど、かなり偏った北ヨーロッパ中心主義で社会思想史が語られてきました。ですがこの事典では、福澤諭吉や明治思想、大正教養主義などが当たり前のように入っています。その意味では、かなり変わってきています。

上野 四〇年前であれば、圧倒的な比重を占めていたのはマルクスとマルクス主義でした。それがよくも悪くもまたお底流として流れている、といえるはずでしょう。

三島 社会科学がもつ社会そのものへの批判的な距離という意味では、マルクス的なものはないといえる。ですが、底流に残っているとはいえないでしょう。

ただ、福祉国家や社会国家の問題、福祉国家論とカルチュラル・スタディーズを、その先に出ている消費

かなりの折目正しくなっています。その点ではオンラインドックスですが、後半はかなりの挑戦している感じはあります。

宇野 前半はオンラインドックスですが、近年研究が大きく発展し、蓄積された研究成果を反映する点に重きがあるのでは、その結果だと思います。ですが、そのなかにも意欲的な項目があります。たとえば、ルネサンス時代の文芸共和国や大航海時代の項目などは面白くも面白くも、やはりグローバル・ヒストリーの考え方を取り入れたところが大きい。それから、先ほどいいた野望という言葉も、郎や章を越えて何度も出てきます。

そして、文明と野蛮、戦争と平和、帝国と植民地など、「」で結んだ項目が多い。少し違和感のあるもの、微妙なものなど、いろいろなものをうまく合わせることがよく議論を巻き起こすという工夫が見られます。

上野 さうですね。思想や観念のネットワークやインタラクションも、その「」に入っています。

三島 第一部第二章にある新旧論争(古代・近代論争)の項目も、昔ながらフランス文学者が読むテーマで、他の分野の研究者は知りもしない。それがルネサンスの項目としてこの事典に入っているのは、この四〇年間のコンテキストの変化が出ているからだと思います。

宇野 この事典は基本的に一項目が見開き二頁、あるいは四頁に収められています。そのぐらいの長さの文章が並んでいて、一つの読み物として読めます。項目ごと、よけいには多様性、悪く言えば多岐にわたって同じテーマが繰り返されている、評価が違ったりする点もある。ですが、その多様性をえに読むのが面白いのです。

それその項目を、読者の頭で再編集すれば、とても面白くも面白くも、功利主義や社会契約論でも、一七世紀と一八世紀、一〇世紀と二〇世紀と違っていて、それらを結ぶつながりも面白くも面白くも、項目ごと、よけいには多様性、悪く言えば多岐にわたって同じテーマが繰り返されている、評価が違ったりする点もある。ですが、その多様性をえに読むのが面白いのです。

ですから、専門家と一般読者を問わず、本書を読まな

読者が編集して、読む事典

読者が編集して、読む事典

と、思想史の大きな文脈のなかで個々の  
 反している。事典全体として思想のイン  
 ネットワークを浮かび上がらせるような枠  
 野さんがいわれたように、ここ数十年の学  
 踏まえ、歴史学におけるグローバル・ヒス  
 権に持つ共和主義研究の成果も  
 れています。ポストコロニアルリズムやカル  
 アイスなども含め、四〇年前にはなかつ  
 レンドが、さまざまなかたちで反映されて  
 きています。

野さんいわれたように、ここ数十年の学  
 踏まえ、歴史学におけるグローバル・ヒス  
 権に持つ共和主義研究の成果も  
 れています。ポストコロニアルリズムやカル  
 アイスなども含め、四〇年前にはなかつ  
 レンドが、さまざまなかたちで反映されて  
 きています。

ついでに項目とまとめて読めるのは、この事典だけで  
 それは福祉大史典にはない特徴だと思いますね。カルチ  
 ユラル・スタティーズの事典のよきものも出ていますけ  
 れども、そのなかには本書にあるカトリック社会思想の項  
 目はないでしょう。

このように、本書には網の目のようにいろいろな要素が  
 絡んでいます。ですから、二、三の関係ないような項目を  
 読んだり、隣の項目を読んでも、副次的効果として思  
 わぬ発見がある。それが本書の目玉だと思います。ちよう  
 ど図書館を探していた本の隣にある本を発見する、といっ  
 た経験です。

宇野 マルクス主義、より広くいえば社会主義ですが、  
 本書の特徴はそこにあると私は思います。たとえば第一部  
 ではシビック・ヒューマニズム、第二部では複数の啓蒙の  
 重視が、この数十年間の学問の変化をよく反映しています  
 が、一九世紀を扱った第三部がどこまで新しくなっている  
 かが問われるところです。

政治思想史は、かつては一九世紀がメインでした。社会  
 思想史を語る上でも、産業革命と民主化の進展と帝国主義  
 が中心としてあった。ところがいまは、一九世紀のイメー  
 ジがあまりのまきりません。あえていえば、イデオロギー  
 が乱立した時代であり、本書でも社会主義とマルクス主義  
 を手厚く扱っています。それも昔ながらの扱い方だけでは  
 なく、貧困と連帯の思想などを、一九世紀から二〇世紀の  
 社会国家、福祉国家の成立に結びつけている。ですから、  
 広い意味での社会主義に関  
 連する論点が、一九世紀と  
 二〇世紀を貫く大きな問題  
 の軸としてある。本書にも  
 それが残っていますし、社  
 会思想史学会ならではの特  
 徴が影響しています。

私はそれを面白く読みま  
 した。昔からの社会主義研  
 究と、フーコーから入った  
 社会問題や人口の研究など  
 が独特に混じっていて、と  
 ても読みががあります。

三島 かつてのマルクス  
 主義の巨大な社会的（

**日本の古典と漢文学**  
 和歌と漢文学・類書・大宰府と道真 他一  
 金原 理／著 対象を中古の和歌や漢詩文に  
 限ることなく、ハーンの「鯨人の感謝」の背  
 景など近代の作品にまで及ぶ比較文学的論集。  
 A5判 並製 192頁 定価1,500円＋税  
 熊本出版文化会館 電話 096 (354) 8201

ら自分で編集していく、という読み方ができますね。  
 三島 本書を編集しているときは、本にまよまよの  
 かじりかたを危惧しましたが、このようにできてみると、奇  
 妙ななまな危険性が見えてきます。寄せ鍋はおいし  
 ですからね（笑）。そのよきを使いこなすことは、読者の  
 テーマになってほしいです。

今後の課題としては、韓国や台湾、中国の学者といっ  
 よに事業をつくることです。個別的な交流はありますが、  
 それをダイナミックに進めて、たまたま共通項であるヨー  
 ロッパについて、彼らのヨーロッパ像を取り入れていけば  
 もっと進めることができます。

宇野 アジアの項目も増やし、ヨーロッパの日本研究者  
 が日本のことを書くことなどが進めば、社会思想史事  
 典がグローバル・ヒストリーの時代にふさわしいものとな  
 りますね。

上野 本書の最大の特徴は、読む事典であるというこ  
 とです。各項目に比較的たっぷりとした紙幅を割くというフォ  
 ーマットは、思想内容を掘り下げて理解しようとする社会  
 思想史という学問にフィットしていますし、この項目もじ  
 つつと読むことができます。巻末の事項索引や人名索引か  
 ら関連項目をたどっていく、他の項目とクロスしている  
 こともわかります。そういうふうに全体を有機的に関連さ  
 せて読める事典でもあり。

政治思想史も経済思想史と比べると、より自己言及的な  
 ところが社会思想史の面白ところかも知れません。そも  
 そも社会思想史とは何かという問題は、他のディシプリン  
 に比べて必ずしも自明ではないのでしょうね。だからで  
 本書の冒頭に「社会思想史への誘い」を置かざるを得なか  
 ったし、そのことは社会思想史研究の特質をよく表してい  
 ます。つねに社会思想史とは何かを問い続けるを得ない  
 のが、この学問の宿命ともいえます。

本書は近代を軸とした五部構成からなっていますが、こ  
 れは現時点で考えうる最良のかたちだろうと思えますし、  
 社会思想史研究の現在の到達点を示しているのは間違いな  
 いと思います。もちろん二〇年後、三〇年後に編集し直し  
 たとき、おおよそ連帯がたちになるのかも知れませんが、その  
 とき、社会思想史とは何かという問いは、はたしてこのよ  
 うなビジョンが示されることになるのか。非常に面白く  
 いて、楽しんでほしいですね。

社会思想史学会設立 40周年記念出版 丸善創業 150周年記念出版

# 社会思想史事典

社会思想史学会 編  
 A5判・884頁 定価(本体20,000円＋税) ISBN978-4-621-30341-2

社会思想史上の重要なトピックを有機的に把握できるように、ルネサンス期から21世紀の現在に  
 至る〈近代〉の歴史的な展開が見通せる時系列に沿った全5部構成にし、それぞれの時代の思潮  
 の全体像を立体的に浮かび上がらせる。社会思想史学会が全面的に編纂に携わった「読む事典」。

■目次

【社会思想史への誘い—方法・視座・アクチュアリティ】  
 社会思想史の成立 社会思想史の方法 社会思想史の視座  
 ①、② 社会思想史のアクチュアリティ①、②

【第I部 近代の形成—ルネサンス期から17世紀へ】  
 1章 ルネサンス 2章 宗教と科学 3章 近代国家の胎動

【第II部 近代の確立—18世紀から19世紀初頭へ】  
 1章 文明社会の出現 2章 文明社会の擁護 3章 文明社会の  
 危機

【第III部 近代の矛盾—19世紀前半から世紀後半へ】  
 1章 国家と社会 2章 資本主義と社会主義 3章 科学と芸術

【第IV部 近代の危機—19世紀末から20世紀前半へ】  
 1章 イズム(主義)の時代 2章 さまざまな社会理論の時代  
 3章 危機の中の文化

【第V部 近代の転換—20世紀後半から21世紀へ】  
 1章 理性批判と規範の再/脱構築 2章 関係/秩序の変容と  
 再編 3章 環境の変化と権力の再編

スクリプナー思想史大事典 全10巻  
 スクリプナー思想史大事典翻訳編集委員会 訳 野家啓一 翻訳編集委員長  
 B5判・4142頁 定価(本体300,000円＋税) ISBN978-4-621-08961-3

社会学理論応用事典 日本社会学会 理論応用事典刊行委員会 編  
 A5判・952頁 定価(本体20,000円＋税) ISBN978-4-621-30074-9

世界宗教百科事典 世界宗教百科事典編集委員会 編 井上順孝 編集委員長  
 A5判・914頁 定価(本体20,000円＋税) ISBN978-4-621-08577-6

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル  
 TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270 https://www.maruzen-publishing.co.jp

未知をひらく、  
 これからも。  
**150th**  
 MARUZEN

野家啓一氏が、近年研究が大きく  
 た研究成果を反映する点に重きがあるの  
 思います。ですが、そのなかにも意欲的  
 項目など(面白く)思っています。やはり  
 リーの考え方を取り入れたところが大き  
 ほどいきました(野家)という言葉も、部  
 出てきます。

野家、戦争と平和、帝国と植民地など  
 る項目が多い。少し違和感のあるもの  
 の。このなかのものを組み合わせること  
 起すという工夫が見られます。

野家、思想と観念のネットワークやイン  
 の「」に入っています。

野家、ある新旧論争(古代、近代論争)  
 ならフランス文学者が読む「マ、他  
 知のもしない。それがルネサンスの項目  
 入っているのは、この四半間のコン  
 が出てはいるからかと思えます。

## 最新・最高の 社会運動人名事典!

1290頁一巻の大冊。視点は斬新、記述は正確、  
 情報は豊富。社会運動史見直しの起爆剤に。

【増補改訂】  
**日本アナキズム運動  
 人名事典**

日本アナキズム運動人名事典編集委員会◆編

◆増補改訂版にはつぎの特色がある。

1. 新たに3,000余名の人物を立項し、元版と合わせて6,000余名となった。
2. 附録のアナキズム運動史関連機関紙誌リストを充実させ、新たに1945年から日本アナキスト連盟解散の1968年までの機関紙誌リストを加えた。
3. 附録に、日本社会主義同盟(1920年設立)の加盟者名簿を収録した。
4. 人名索引に加え、機関紙誌名の索引を載せた。

類書に例をみない本事典の特色

- ◆安藤昌益・田中正造から塩谷雄高・水木しげるまで収録人名6000名。
- ◆革命運動・労働運動はもとより文学・芸術・思想運動のすべてを網羅し、朝鮮・中国・台湾に及ぶ。あっと驚く新発見、新視点を多数収録!
- ◆100名に近い新進気鋭の在野研究者を揃え、最新の調査・研究による史料・文献を洩れなく付した渾身の記述は類書に比をみない!
- ◆100頁あまりの巻末付録「アナキズム運動関連新聞・雑誌リスト」(1912~1968)には発行所、発行年月日、号数、主要参加人名をきっちり記載。研究者には垂涎・必携の宝となる!

株式会社 ぱる出版 〒160-0011 東京都新宿区若葉1-9-16 tel. 03-3353-2835 fax. 03-3353-2887 http://pal-pub.jp/

と、読者の頭で再編集すれば、とても面  
 功利主義や社会契約論でも、一七世紀  
 紀、二〇世紀の違いがあり、それら  
 ものでも、項目をどのように結  
 して、論文集を書くか  
 して、本書を読むか  
 と、一般読者を問わず、本書を読むか

【増補改訂】  
**日本アナキズム運動  
 人名事典**

日本アナキズム運動人名事典編集委員会◆編

【定価】 本体32,000円＋税 ISBN978-4-8272-1199-3 C0521  
 【体裁】 A5判・総頁数1290頁・収録人名6000名  
 本文8.5ホ横2段組・上製本・表紙布クロス装・ジャケット掛け・函入り  
 【装幀】 工藤強勝+勝田亜加里